

a 学校教育目標	心豊かに かしく たくましく	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 【ビジョン】(自校の将来像)	志を抱き、自らその実現に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成 組織の一員としての自覚をもち、新たな教育活動の創造に向け、協働できる教職員が創る学校
----------	----------------	----------------------	----------------------------------	--

評価計画					自己評価					改善方策	学校関係者評価				
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10 月	2 月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
						h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	主体的で探究的に学ぶ児童を育成する。	基礎・基本の学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。	基礎・基本の学力の定着 ・帯タイムや家庭学習による繰り返し学習の徹底 ・漢字検定・計算検定テスト(学期毎)の取組	・学力調査NTRで目標値の達成	前年度平均以上	全体50.9	全体50.9	96%	B	・単元テストの結果、知識・技能の到達率が70%未満だった児童は全体で2人であった。また、思考・判断・表現の到達率が70%未満だった児童は全体で10人であったが、再テストを繰り返すことで、全員が到達率70%以上になっている。 ・漢字検定は、再テストも含めて全員が正答率90%以上になっている。計算検定は、再テストも含めて98%の児童が正答率90%以上になっている。 ・R80を活用したまとめ・振り返りをしている児童は、7月から8ポイント増えた。 ・児童アンケートの結果全体では、指標となる4つの項目すべてにおいて到達目標を達成している。特に、「授業では、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いています。」では、7月から6ポイント上昇している。授業で、分からないこと、困っていることをいうようにしている児童が、7月から5ポイント上昇している。	・児童中心の授業展開、意図的な説明場面の充実、「分からない」ということができる雰囲気づくりの奨励、ノート指導・廊下掲示、予習の取組を、引き続き研修を通して全教職員で進めていく。 ・全学級で、帯タイムを活用した校内漢字・計算検定に向けての反復練習及び検定の実施を引き続き行うとともに、職員室の教員とも連携し、補充学習にも取り組む。 ・全学級で、毎週木曜日の帯タイムに、「100マス作文」の実施し、アシストシートを活用したドリル学習も実施する。 ・あらすじやキーワードの把握・語彙力増加をねらう読書活動を推進する。 ・振り返りの場面ではR80を活用し、「分かったこと」だけでなく、「分からなかったこと」も書けるように指導することで、学習成果を自己評価できる力をつけていく。また、意見や感想等視点を与えることで、思考を広げたり深めたりできる「R80」の活用を引き続き行う。	○			・細かく評価作業がされていて、学校全体での組織的な取組はよく伝わります。 ・基礎学力の定着では、帯タイム、漢字・計算検定などで反復練習を校内体制として取り組んでおられるので、継続して下さい。 ・三原市内全体での取り組みであるR80や、100マス作文など書く活動は、継続することで思考力が育っていきと思います。内容面でのさらなるステップアップを期待します。 ・少人数・複式学級の実態を活かした児童同士の学び合いのある授業改善に引き続き取り組んでいただき、主体的に学ぶ児童を育成していただきたい。
				・算数科の単元テスト 知識・技能 平均到達率70%未満 思考・判断・表現 平均到達率70%未満 (再テストも含む)	0人	知・技1人	知・技2人	知・技98%	B						
				・漢字検定・計算検定テスト合格 90点以上(再テストも含む)	90%	100%	漢100% 計98%	110%	A						
				・まとめ・振り返り場面で自分の考えを書いたり、学習の様子を評価したりできる児童の割合【R80】 ・児童アンケートの肯定的評価	100%	88%	96%	96%	B						
豊かな心・健やかな体	心も体もたくましい児童を育成する。	認め合い支え合い、自ら伸びる、ともに伸びる児童を育成する。	自分たちで決めた目標の達成に向けて粘り強く取り組むことを通して、自己有用感や集団の意識を向上させる。 ・児童アンケートの肯定的評価 「体と動かすのが好きと答えた児童の割合」等	・自己肯定感の割合 「前と比べて良くなったと感じている児童の割合」	80%	92%	92%	115%	A	・児童アンケートの結果、「前の自分と比べて良くなったことやできるようになったことがある」と自覚する児童の割合は92%であった。 ・「自分から進んであいさつをしている児童」は96%、「成長の木に良くなったことやできるようになったことを書いている児童」は98%であり、日々の取り組みが自己肯定感を高めていることが伺えた。保護者アンケートの結果でも、「わが子は、自分の良いところを知っている」の肯定的評価は90%であった。 ・児童アンケートの結果、「体を動かすのが好き」と答えた児童の割合から肯定的な結果が84%であり、目標値と比較をすると+4%であった。 ・体を動かすのが好きな児童の割合も高い。美化保健委員会によるマラソン大会も実施し、全校でマラソンに取り組むことができた。今後も委員会に働きかけ、楽しく運動する機会を増やしていく。 ・体育の時間の初めにサーキット運動、柔軟運動を取り入れる。	・児童の自己肯定感が高い。校内掲示等でも自己の成長が分かるようになっているので、引き続き実施していく。 ・「成長の木」の取組は、自己の成長や友達の成長を認め合える集団作りにつながっている。児童会が、給食時間に放送で紹介しているので、自己の成長を書くだけにとどまらず、お互いのよいところを知る機会になっている。 ・体を動かすのが好きな児童の割合も高い。美化保健委員会によるマラソン大会も実施し、全校でマラソンに取り組むことができた。今後も委員会に働きかけ、楽しく運動する機会を増やしていく。 ・体育の時間の初めにサーキット運動、柔軟運動を取り入れる。	○			・日々の丁寧な取組が、自己肯定感の肯定的評価の高い数値につながっている。 ・児童会を中心としたお互いを認め合う取組は、とてもよいと思います。温かい雰囲気は、沼田小学校のよさであるので、この伝統をしっかり引き継いでいってほしい。 ・体力が年々低下しているとニュースでも言っている。体力と並行して、体を動かすことが好きと楽しく運動することも引き続き取り組んでほしい。
					80%	86%	84%	105%	A						
信頼される学校	学校と保護者・地域及び関係機関との双方向の信頼関係を構築する。	地域に開かれた信頼される学校の構築を図る。	働き方改革の推進 校務支援システム等、ICT機器を活用し、 ・スケジュール管理の徹底を図る。 ・各部、各委員会の組織的な取組を進める。 ・PDCAサイクルを充実させる。 積極的な地域教材や人材の活用 ・学校行事や教科等で地域人材や地域教材を活用した活動や学習を進める。 積極的な情報発信 ・ICT機器を活用して、学校だより、HP、学級だより等で積極的に学校や学級の様子を発信する。	・定時退校日の完全実施。 ・年間を通して勤務時間外の上限時間を超えない。 (月45時間以内、年間360時間以内)	100%	定時退校100%	定時退校100%	100%	A	・毎週水曜日の定時退校日とそれ以外の日の18時退校を実践することができた。また、年間1086時間の授業時数に合わせて、計画的に授業時間数を調節し、繁忙期には早帰りを実施することで、業務に専念できるようにした。これらのことで、100%を達成することができた。 ・職員の各月の時間外勤務の上限45時間を超える職員は0人であった。9月は多い職員で26時間、10月は28時間、11月は21時間、12月は時間以内であった。 ・保護者アンケート「わが子は地域のことを学習したり、地域の方と一緒に活動したりするのを楽しんでいる」の肯定的評価が86.3%から91.8%に上昇した。2学期は、総合的な学習の時間で3・4年生はそばづくり、5・6年生は沼田の歴史を学習したり、1・2年生は校外学習で町たんけんを行った結果である。1年生に地域学習への否定的回答が多いので、引き続き様々な場面で実施した後に児童へ価値づけたり、保護者へ情報発信していく必要がある。 ・保護者アンケート「学校だより、学級だより、すぐー等で学校・学級の様子が伝わった」の肯定的評価は96.1%から100%に上昇した。各学級のお便りを「すぐー」で定期的に行った結果である。引き続き、学校の様子を様々な媒体を使って保護者へ情報発信し、連携を密にとり、信頼関係の構築を図っていく。	・水曜日の定時退校とそれ以外の18時退校が習慣化しているので、引き続き取り組んでいく。適正な授業時数への調整スケジュールを予め情報共有することで、年間を通して見直しをもって業務ができるようにしていく。準学校衛生委員会で働き方改革の視点での話し合いを行い、職員の意見を吸い上げて、働きやすい職場づくりを引き続き行っていく。 ・来年度スタートするコミュニティー・スクールの実施に向け、学校教育活動の発信に努め、地域と保護者との連携・協働する教育活動を計画していく。 ・来年度の生活、総合的な学習のカリキュラムを見直し、改善することで横断的な学習を展開できるようにし、地域に愛着を持った児童を育成していく。 ・地域学習の際は適宜迅速に情報発信していく。 ・ICT機器を活用した情報発信や、すぐーによる学級だより・学校だよりの配信を引き続き行っていく。情報発信により、家庭と一体となって進めることでより効果的に教育活動を実施し児童に力をつけていく必要がある。	○			・学校運営については教職員の心身の健康が一番です。働き方改革を推進し、教員が子どもたちと向き合う時間の確保がされているので続けてください。 ・来年度からは、組織は変わりますが、地域が学校を応援する気持ちは同じです。これまでの地域とつながった活動を、より児童のためとなるよう計画的に進めていってください。持続可能な取組となるよう、できることを少しずつしていきましょう。
					100%	時間外上限超えていない100%	時間外上限超えていない100%								
						地域学習86.3%	地域学習91.8%	107%	A						
				・保護者の学校理解の肯定的評価割合。 保護者アンケート (7月・12月)	90%以上	情報発信96, 1%	情報発信100%								

【j: 自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【l: 学校関係者評価 評価】

イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。